

小笠原案内 気象・自然・歴史・文化 (小笠原シリーズ 6)

真木太一・真木みどり共著, 南方新社, 2012年9月, 78 pp. 定価 1260 円(税別)

観光, 出張…さまざまな旅行の機会の中で, 「ガイドブック」は手軽に役立つ情報源である。しかし, その多くが観光的見どころやグルメスポット, 宿泊といったいわゆるレジャー情報のみである場合が多く, その地域の気候風土的な背景をより深く知りたかった際, 物足りなさを感じることは珍しくない。本書は, まさにそうした視点から, 小笠原の気象・自然・歴史・文化を中心にわかりやすく解説した, 著者の言葉を借りれば, いわば「旅行参考書」である。といってもボリュームは通常のガイドブック程度にコンパクトにまとめられ, 気軽に手に取りやすく, それでいて口絵や写真, 参考文献が充実している。

本書が解説する小笠原諸島は, 東京から南へ約 1,000 キロの太平洋上に位置する東西約 1,800 キロ, 南北約 1,000 キロの広大な範囲に散在する実に 180 を超える島々から構成されている。過去に一度も大陸や日本本土と陸続きになったことがなく, まさに「東洋のガラパゴス」として, 進化の証拠が凝縮された島といわれており, 2011 年に世界自然遺産に指定された。こうした, 小笠原諸島に対し, 南極から熱帯まで, 実に多くの観測・研究を続けてきた極地気象学の専門家である著者の一人, 真木太一氏が, 気象・気候を中心に多方面にわたり解説している。本書は大きくは以下の 7 つの章立てで構成されている。

- 1 小笠原の地理的・地形的特徴
- 2 小笠原の気候の特徴

- 3 父島・母島の歴史
 - 4 小笠原父島・母島の特徴
 - 5 小笠原の動植物
 - 6 小笠原の農林業
 - 7 小笠原の詳しい気象と気候
- あとがき
引用・参考文献
索引

本書の特徴として, 多くの関連したコラムが設けられていることである。特に, 専門の立場から小笠原の気象について解説したものがあるなかで, 「気象と気候の違い」や「気象・気候のデータミス」など, 気象学本来の肝といえる解説があり読んでいておもしろい。またそうかと思えば, 「小笠原の歓送迎」といった, まさに小笠原に行ったものでなければ知りえない体験談もあるなど, 読者を飽きさせない工夫が随所に盛り込まれている。

真木氏は, 本書執筆のきっかけとして, 小笠原の旅行書の気象に関する記述のなかに「相当多くの間違いがあり…このままでは悪影響があり, 放置できないと考えたことが契機となった。」と述べている。気象に関する多数の著書を執筆してきた著者の, まさに気象学者としての強い思いが込められている。これから小笠原に行こうという人はもちろんのこと, まずは小笠原のことを調べてみたいという人にも是非一読をお勧めしたい一冊である。

(東京都環境科学研究所 横山 仁)

<http://www.agrmet.jp/sk/2013/C-3.pdf>

2013年3月22日 掲載

Copyright 2013, The Society of Agricultural Meteorology of Japan